

# 2025 年度事業計画

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

## 目 次

はじめに

### I 圧勝普及事業（公益目的事業）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 圧勝対局環境の提供
- 4 圧勝普及と圧勝指導
  - 4-1 青少年等への圧勝普及
  - 4-2 国内における圧勝普及および圧勝愛好者への指導
  - 4-3 海外への圧勝普及
- 5 段級位認定
- 6 圧勝大会の開催
  - 6-1 青少年対象の圧勝大会の開催
  - 6-2 圧勝選手権・圧勝大会等の開催
  - 6-3 アマチュア国際大会への参加等
- 7 表彰
- 8 圧勝関係情報提供
- 9 圧勝殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
  - 10-1 有楽町圧勝センター
  - 10-2 関西総本部
  - 10-3 中部総本部

### II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍等事業（収益事業3）

### III 管理部門

- 1 コンプライアンス
- 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
- 3 「創立100周年事業」に向けて

## はじめに

日本棋院は、日本の国技であり伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁爱好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供などの事業を国内外で実施する。

2025年度における事業計画及び予算は次の通りとする。

## I 围碁普及事業（公益目的事業）

### 1 棋戦事業

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の模様は、新聞での速報や囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁爱好者の棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。

また、地方で開催される挑戦手合や棋戦では、棋士と地元の囲碁爱好者や子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、解説会や指導碁など、ファンイベントを同時に開催する。海外棋戦などを含めた2025年度予定の棋戦の概要は以下の通りである。

#### （1）棋聖戦（第50期 読売新聞社）

予選：アマチュア4名を含む全棋士が参加する、ファーストトーナメント  
予選を実施し、勝ち上がり16名がCリーグに出場する。

リーグ戦：上位から順にSリーグ（6名）、Aリーグ（8名）、Bリーグ（8名×2組）、Cリーグ（32名の変則リーグ）を行い、各リーグの優勝者がパラマス方式による挑戦者決定トーナメントを行う。各リーグの上位2から6名は上位リーグに昇格し、逆に各リーグの下位2から6名は下位リーグに降格する。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し棋聖位を決定。敗者は次期Sリーグ戦から出場。

#### （2）名人戦（第50期 朝日新聞社）

予選：全棋士が参加し、4段階の予選を行い、リーグ入り（4枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：9人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。上位5名が残留、4名が陥落（次期最終予選からの出場）。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し名人位を決定。敗者は次期リーグ戦から出場

#### （3）王座戦（第73期 日本経済新聞社）

予選：全棋士が参加し、本戦出場の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士（前期決勝進出者2名とタイトルホルダー）が加わり16名が王座への挑戦権をかけた本戦トーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し王座位を決定。敗者は次期本戦から出場。

#### （4）天元戦（第51期 新聞三社連合）

予選：全棋士が参加し、本戦出場28名+ $\alpha$ をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士（前期準決勝進出者 4 名とタイトルホルダー）が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し天元位を決定。敗者は次期本戦から出場。

（5） 本因坊戦（第 80 期 毎日新聞社）

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 14 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士（前期決勝進出者 2 名）が加わり 16 名が本因坊への挑戦権をかけた本戦トーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し本因坊を決定。敗者は次期本戦から出場。

（6） 碁聖戦（第 50 期 新聞囲碁連盟）

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 24 名をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士（前期準決勝進出者 4 名とタイトルホルダー）が加わり碁聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し碁聖位を決定。敗者は次期本戦から出場。

（7） 十段戦（第 64 期 産経新聞社）

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 16 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士（前期準決勝進出者 4 名）を加えた 20 名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し十段位を決定。敗者は次期本戦から出場。

（8） 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦（第 32 期 京都新聞社・阿含宗）

アマチュア 8 名を含む全棋士で予選を行う。前期優勝者と予選通過者、タイトル保持者の計 16 名で本戦トーナメントを実施し、優勝者を決定する（決勝戦は京都開催）。

（9） 阿含・桐山杯日中決戦（第 26 期 京都新聞社・阿含宗）

日本と中国の桐山杯優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。第 26 期は、日本で開催の予定。

（10） 新人王戦（第 50 期 しんぶん赤旗）

25 歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、33 名によるトーナメント戦を実施する。決勝戦は三番勝負で優勝者を決定。

（11） NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦（第 73 回 NHK）

選抜棋士 50 人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。

（12） 竜星戦（第 34 期 囲碁将棋チャンネル）

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 96 名をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：96 名を 8 組に分け勝ち抜き戦の後 16 名による決勝トーナメント戦を実施し優勝者を決定。CS 放送（囲碁・将棋チャンネル）で放映。

（13） 新竜星戦（第 4 回 围碁将棋チャンネル）

竜星戦決勝トーナメント進出者（16 名）ほか、32 名によるトーナメント戦。早碁（フィッシュヤー方式）での実施。決勝戦は 3 番勝負。

（14） 女流本因坊戦（第 44 期 共同通信社）

本 戦：予選の勝ち上がりと前期ベスト 4、女流タイトルホルダー 24 名によるトーナメ

ント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し女流本因坊位を決定。

(15) 女流名人戦博多・カマチ杯（第36期 巨樹の会 トータル・メディカルサービス メディックスジャパン）

予選：全棋士が参加し、3段階の予選を行い、リーグ入り（3枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：7人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。上位4名はリーグ残留、リーグ陥落者3名は次期予選Aからの出場。

挑戦手合：三番勝負（2勝先取）を実施し女流名人を決定。敗者は次期リーグ戦から出場。

(16) 会津中央病院・女流立葵杯（第12期 温知会）

本戦：予選の勝ち上がりと、女流タイトルホルダー8名によるトーナメント戦を実施。

挑戦手合：三番勝負（2勝先勝）を実施し、女流立葵杯を決定。

(17) 女流棋聖戦（第29期 NTTドコモ）

本戦：予選の勝ち上がりと、前期挑戦手合敗者、女流タイトルホルダーの16名によるトーナメント戦。

挑戦手合：三番勝負（2勝先取）を実施し女流棋聖位を決定。なお、本戦と

挑戦手合はCS放送（囲碁・将棋チャンネル）で放映。

(18) 扇興杯女流囲碁最強戦（第10回 センコーグループホールディングス）

予選勝ち上がり者と前回優勝者、準優勝者、女流タイトルホルダー16名によるトーナメント戦。準決勝、決勝戦は滋賀県東近江市で開催し優勝者を決定。

(19) 日本女子囲碁リーグ（第1回 阪急電鉄 三井住友カードほか）

1チーム監督と女流棋士4名で構成し、3名対3名によるチーム団体戦を実施。リーグ戦1位と2位で決勝戦を行い、優勝チームを決定。

(20) テイケイグループ杯俊英戦 レジェンド戦 女流レジェンド戦（第5回 テイケイグループ）

<俊英戦>予選勝ち上がり者12名を6名ずつの2つのリーグに分け、リーグ優勝者による決勝三番勝負を実施し、優勝者を決定。

<レジェンド戦>60歳以上の棋士の予選勝ち上がり者、名誉タイトル保持者、女流レジェンド戦準決勝進出者による18名のトーナメント戦。

<女流レジェンド戦>45歳以上の女流タイトル獲得者に予選勝ち上がり者による16名のトーナメント戦。

(21) 王冠戦（第66期 中日新聞社）

中部総本部所属の棋士で予選を行い12名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番勝負に出場。

(22) 広島アルミ杯・若鯉戦（第20回 広島アルミニウム工業）

30歳以下、七段以下の棋士で予選を行い、16名（前期優勝者、準優勝者はシード）によるトーナメント戦。本戦は広島で開催し、優勝者を決定。

(23) SGW杯中庸戦（第8回 セントグランデW）

日本棋院所属の31歳以上60歳以下でかつ七大棋戦、竜星戦、阿含・桐山杯、SGW杯中庸戦の優勝経験がない棋士が参加し、優勝者を決める。

(24) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦（センコーグループホールディングスほか）

日本、中国、韓国、中華台北のトップ棋士8名による女流世界1位決定戦。

(25) 関西囲碁オープントーナメント 2025

関西総本部、関西棋院所属の棋士と関西トップアマおよび女流トップアマが賞金ランギングクラス別（トップ、A、B、C、Dクラス）に分かれ予選を行い、本戦8名によるトーナメント方式により各クラス優勝者5名を決定。

(26) ワイズアカデミー杯（第7回 ワイズアカデミー）

若手棋士4人と少年少女選抜4名計8名による総当たりリーグ戦。

(27) 岩本薰記念益田杯（第3回 道栄商事）

18歳以下かつ二段以下の棋士および日本棋院院生若干名、16名による4回戦リーグ戦。

(28) 海外棋戦

① LG杯、三星火災杯、農心杯、国手山脈杯（以上、韓国主催）、春蘭杯、夢百合杯、呉清源杯、乙級リーグ（以上、中国主催）等の海外棋戦に参戦する。

② 海外棋戦の参戦にあたっては、「GO・碁・ジャパン」ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金によるさらなるチーム強化等を図り、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すこととする。

本チームは、監督、コーチ並びに賞金ランギング上位者、海外棋戦における成績優秀者、新人王等、及び女流棋士ランギング上位者の中から選出される代表選手及び育成選手により編成する。

## 2 棋士育成事業

棋士をめざす青少年の養成機関として院生研修を実施するとともに、海外棋戦での活躍に向けて若手棋士の育成を行う。

(1) 院生研修・棋士採用

毎週土曜・日曜（月8回）、院生研修を実施する。棋士師範の指導のもと、クラス別のリーグ戦で対局し、毎月の成績によりクラスの昇降級を行う。この院生研修の成績上位者と外来受験者合わせて行われる棋士採用試験を実施する。

指導の点については院生研修日に師範による解説と検討指導を実施。また、伝統文化としての棋道を担う棋士育成のため、社会人として必要な公序良俗の観念を習得してもらうよう指導を行う。

女流棋士の拡充のために2018年度に新設した「女流特別推薦採用棋士」は本年度も引き続き門戸を開く。仲邑堇初段（当時）が入段するときに新設された「英才特別採用推薦棋士」については、本制度に該当する有望な少年・少女を発掘するよう広く情報を集める。

また院生の下部組織の位置づけとして研修会を2023年度から開始。実力的に院生に及ばない有望な子供たちが院生に入れるレベルになることを目標に育成する。

(2) 若手棋士育成

「GO・碁・ジャパン」メンバーの若手棋士には、海外棋戦へ挑戦させ、海外対局感覚を

身につけるとともに、棋力向上の取り組みを行う。毎週土曜日に東京本院にてナショナルチーム研究会を行う。(中部関西の棋士はネット対局で参加)。

夏季・冬季にナショナルチーム合宿を行うか、合宿に準ずる強化策を実施する。

### 3 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設においてお客様対局場を開設する他、ネット対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に寄与する。

#### (1) お客様対局室の開設

東京本院、有楽町囲碁センター、梅田囲碁サロン、中部総本部の各施設において、お客様対局場を開設し、お客様同士で自由に囲碁の対局が行えるほか、相手のいないお客様には、日本棋院が相手を見つけて、組み合わせ対局を行う。また、入門者向けコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供する。

#### (2) ネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代・世界の囲碁愛好者が、パソコン及びスマートフォン・タブレット上で手軽に対局を楽しめる環境を提供する。魅力あるサービスを展開し、囲碁普及における中核的な事業として強化していく。

2017年より導入している対戦用AIのバリエーション増やし、ユーザーの対局機会の増加を図った。

#### (3) 貸室・囲碁用品の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー等の開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用に応じる。

#### (4) 海外囲碁センターの支援

南米に保有する囲碁センターについて南米本部(ブラジル・サンパウロ)は、引き続き現地の囲碁普及団体に囲碁センターの運営を委ねるが、将来に向けて再建を念頭に、現地の囲碁普及活動を支援する。

### 4 囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、集中力・認識力・想像力・コミュニケーション力の向上に優れ、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界等で認知されてきている。

また、「囲碁と脳に関する研究」(東北大学)でも「囲碁は、子供の自己抑制力を伸ばす」ことが明らかとなっている。

囲碁の素晴らしさを幅広い世代へ伝えるため、今後もさらに普及活動を推進する。また、すべての囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化を普及するため、棋士による指導のほか、囲碁普及指導員、地元ボランティアによる囲碁指導を全国で展開する。

#### 4-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求めるため、地方自

治体や学校等と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開する。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 全国的小・中学校で入門囲碁体験教室を開催

棋士等を派遣し指導を行う。また、現地での継続的な開催を支援する。

② ジュニア教室の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催する。

③ 2022年12月にリリースした新しい囲碁入門アプリ「囲碁であそぼ！」を活用し、これまで囲碁に触れることの少なかった層にアピールしさらなる普及の拡大を図る。

(2) 学校教育への囲碁導入

① 「総合学習」伝統文化体験学習の枠を使った正課授業及び部活動等への囲碁導入の支援を行う。

② 学校囲碁指導員講習会の実施による拡充及び指導員養成を行う。

③ 文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進を行う。

④ 高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進を行う。

⑤ 「がっこう囲碁普及基金」を有効活用し、学校教育への導入の際の棋士または指導員の派遣、用具支援を行う。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、東京やオンラインで学校囲碁指導員講習会を開催する。

(4) 大学での囲碁授業の展開

① 2024年度の大学の囲碁授業は東京大学、大阪大学、名古屋大学、早稲田大学など、全国35大学で授業を行った。今後も開講促進の活動を実施する。

② 大学での囲碁授業の講師として棋士を派遣するとともに、囲碁授業を円滑に実施するため、講師役の棋士への研修を実施する等支援を行う。

(5) 「がっこう囲碁普及基金」の拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした「がっこう囲碁普及基金」基金（2015年4月開始）の維持と拡大を行う。

(6) 法人賛助会員の維持・拡大

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただくもので、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等に有効に活用しており、会員の維持・拡大を行う。

## 4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

囲碁の素晴らしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、囲碁愛好者の棋力向上に向けた指導を行い、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。

(1) 围碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校

を常時開設。棋士による講座・解説を実施する。また、2020年10月よりスタートしたオンライン講座の充実により地方在住の愛好者に向けた指導の充実を図る。

#### (2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努める。

#### (3) ネット指導碁

日本棋院が運営するネット対局サイト「幽玄の間」上で棋士による指導碁を実施している。遠隔地にお住まいの囲碁ファンも気軽に指導碁を受けられる。

#### (4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士の派遣を行う。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行う。

#### (5) 棋譜診断

2022年3月から開始した棋譜診断サービスは当初日本棋院会員向けサービスとしていたが、2023年3月より会員以外の方にも利用出来るサービスとして展開している。診断を担当する棋士も大きく増え利用者の満足度も増している。

#### (6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、各県本部・県支部連合会の協力を得て、棋士を派遣し、囲碁愛好者と棋士の交流を深める。棋士派遣を通して囲碁人口の拡大、個人・支部会員等の維持拡大を図る。

- ① 個人、支部会員の維持・拡大
- ② 法人会員の維持・拡大
- ③ 支部の活性化

囲碁普及と各地の囲碁愛好者の棋力向上を目指し、支部代表者懇談会を全国8ヵ所で開催する。現地の要望、提案等意見交換を行うとともに、地域の「絆を作りだす力」としてのコミュニティーづくりとしても支部活動を強化していく。

また、2020年度より棋士派遣を受けやすくする制度を導入し、全国の支部に活用いただけるように働きかけている。

### 4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツの一つとして、他の国々の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、現地囲碁愛好者の棋力向上に寄与する。

#### (1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、国際囲碁連盟（IGF）と連携し、世界各国への囲碁普及と組織化に努める。また、世界の囲碁界をけん引する日本棋院、中国囲棋協会、韓国棋院の三ヵ国の代表が出席する日中韓の三ヵ国首脳会議を開き、将来にわたり世界に囲碁を大きく発展させ、広く振興するべく、三ヵ国により協力・連携・努力を行う。

#### (2) 世界アマチュア囲碁選手権戦（カナダ・バンクーバー大会）

自国の選抜を勝ち抜いて出場する世界最高峰のアマチュアの世界大会として囲碁のオリン

ピックと言われている。今回で45回目の開催を迎える歴史のある大会は、今年カナダ・バンクーバーで、アジア圏以外で初めて開催される。本大会が成功裏に収めるべく、必要に応じ全面的に協力する。(日程:2025年5月17日~5月22日 会場:エグゼクティブホテルバンクーバーエアポート)

### (3) 海外棋士派遣

各官公庁・民間団体等の支援を得て、海外に棋士を派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地囲碁ファンへの講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。

- アメリカへの棋士派遣 (アメリカ碁コンgres開催地等)
- ヨーロッパへの棋士派遣 (ヨーロッパ碁コンgres開催地等)
- シアトル囲碁センターへの棋士派遣 (米国・シアトル)

### (4) 岩本囲碁基金

世界へ囲碁普及を推進させるため、岩本北米囲碁基金、岩本アウトリーチ囲碁基金、岩本ヨーロッパ囲碁基金の各基金を活用し、北米、ヨーロッパの囲碁普及をより一層進めていく。

### (5) (一社)全日本囲碁連合(JGOF)

囲碁競技の進化と国際的発展を推進し、囲碁を通じて国際的友好親善に貢献するとともに、日本を代表する選手等の育成強化を図り、世界の囲碁の振興に寄与することを目的として、2019年10月に(公財)日本ペア碁協会、(一財)関西棋院、(公財)日本棋院の3団体により全日本囲碁連合が発足した。JOC加盟を目指す等、引き続き、3団体が協力・連携・努力を行う。

## 5 段級位認定

段級位の認定は棋力の証明となるもので、対局を行う際にはハンディキャップを付与することで、棋力の差がある者同士の対局でも公平に勝敗を競うことが可能となる。

### (1) 段級位認定大会

今年度も全国各地で認定大会を開催する。

### (2) 紙上認定

日本棋院発行の月刊碁ワールド、ホームページ、そのほか一般紙に認定問題を掲載し、段級位認定を行う。1回の認定で段級位を申請できる認定問題の配布を2回実施する。

### (3) インターネット認定

ネット対局「幽玄の間」を活用した、レーティングポイントによる段級位認定を行う。

## 6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した全国470余りの支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行う。

## 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした、高校選手権、少年少女囲碁大会、こども棋聖戦の開催を、各都道府県と協力して開催を予定している。コロナ以降開催見合わせとなっている小中団体戦についても、協賛社の獲得等、開催に向けての努力を継続し、条件次第では今年度中の再開も視野に入れて準備を進めている。

### (1) 第49回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

8月4、5、6日の3日間、日本棋院東京本院にて全国大会を開催予定。男子団体戦、女子団体戦、男子個人戦、女子個人戦に延べ500名が参加する。地方大会においては、各都道府県の代表選手を決める代表選抜戦に加えて、段級位認定大会を実施し、初級者から高段者まで幅広く参加が可能な、囲碁を愛好する全ての高校生の目標となる大会となっている。

全国高等学校囲碁連盟、高等学校文化連盟全国囲碁専門部との共催。

### (2) 第46回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

7月29、30日の2日間、日本棋院東京本院にて全国大会を開催予定。小学生の部、中学生の部に各100名の都道府県代表選手が出場する。地方大会においては、各都道府県の代表選手を決める代表選抜戦に加えて、段級位認定大会を実施し、初級者から高段者まで幅広く参加が可能な、囲碁を愛好する全ての小・中学生の目標となる大会となっている。

<公益財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）>

### (3) 第17回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

全国から小学校64校、中学校64校が集まる3名1チームの団体戦。

現在、スポンサー獲得のために動いている。

### (4) 第15回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

12月20、21日の2日間、岡山県倉敷市において全国大会を開催予定。都道府県大会で選抜された小学生低学年の部48名、小学生高学年の部48名の計96名がこども棋聖の称号をかけて競う。倉敷市・読売新聞社との共催。

### (5) その他の大会の開催

ジュニア囲碁パーク、千代田区こども囲碁大会、ジュニア囲碁フェスティバル、ジュニア囲碁大会、ロッテこども囲碁大会、夏休みこども囲碁フェスティバルなど、こどもたちの棋力認定の機会を定期的に設ける。

## 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

### (1) 第19回全日本アマチュア名人戦

朝日新聞社との共催。全国大会は7月5、6日、日本棋院東京本院で行う。都道府県代表とシード計約50名が出場。全国大会優勝者はアマチュア名人との三番勝負に出場する。

### (3) 第71回全日本アマチュア本因坊戦

毎日新聞社との共催。全国大会は8月23、24日、日本棋院東京本院で行う。都道府県代

表とシード計 64 名が出場、アマチュア本因坊の称号をかけて競う。

(4) 第 46 期世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定一番勝負

アマ名人とアマ本因坊の一番勝負により、翌年の世界アマ選手権日本代表を決定する。対局は日本棋院東京本院で行う。

(5) 第 59 回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界最大規模の都市対抗戦。女性による 1 チーム 5 名の団体戦。全国の各都市持ち回りで開催しており、コロナによる中断をはさみ、2024 年度の福島県郡山大会で再開した。全国から 250 名程度が参加し、囲碁と交流を通じて、全国各地での囲碁の振興を図る。現在 2025 年度の開催地を選考中。

(6) 第 68 回全日本女流アマ選手権戦

各都道府県大会を勝ち上がった選手 96 名が 2026 年 3 月、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。

(7) 都道府県民まつりの開催

各都道府県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的に、また、支部の活性化となるよう推進する。

(8) 全国規模イベントへの参加

「全国健康福祉祭＝ねんりんピック」の囲碁大会は、10 月 19 日から鳥取県で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として参加、協力を行う。

第 39 回国民文化祭は岐阜県で行われ、囲碁部門は 11 月 16 日、17 日に高山市で開催される予定である。

(9) その他大会等

1 月 5 日を「囲碁の日」とし、東京本院、関西総本部、中部総本部で打ち初め式を開催する。棋士による記念対局や指導碁等、囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような催しを実施する。

### 6-3 アマチュア国際大会への参加等

(1) アマチュア国際大会への参加

- 世界アマチュア囲碁選手権戦（中国）
- ワールドユース囲碁選手権戦
- ハンファ生命杯少年少女囲碁選手権戦（韓国開催）
- 世界大学生囲碁選手権戦
- 韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦

(2) 国際交流の支援及び大会の後援・協力

- 国際アマチュア・ペア碁選手権大会

## 7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ表彰する。

### (1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ 1964 年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。

### (2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため 1963 年に創設。囲碁界において顕著な成績を認め、将来が嘱望される棋士を表彰する。

### (3) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに創設し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した方を顕彰（殿堂入り）する。

### (4) その他

上記の他、棋道賞、普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功労賞、土川賞等の表彰がある。

## 8 囲碁関係情報提供

日本の伝統文化である囲碁を次代に継承していくため、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を積極的に発信する。

### (1) 雑誌の発行

#### ① 月刊「碁ワールド」

月刊誌。毎月 20 日発売。日本棋院会員誌、書店販売。中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュース、トライアル問題などバラエティーに富んだ内容を掲載する。

#### ② 「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行予定。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑などの情報をまとめたもの。

### (2) 電子媒体による情報提供

#### ① 日本棋院ホームページ

最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報、棋士プロフィールなどの囲碁情報をはじめ、これから囲碁を始めたい方のための簡単入門ページや日本棋院として取り組んでいる囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」、学校囲碁普及事業などの情報を提供している。また、事業計画、報告や定款など公益法人として必要な情報公開を行っている。

#### ② インターネット対局「幽玄の間」

ネット対局「幽玄の間」では、あらゆる世代のあらゆる地域の人たちが囲碁を楽しめるように、次のような環境を提供している。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップ棋戦の棋譜を配信
- ・ネット対局「幽玄の間」で中継された棋譜のアーカイブ提供
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流
- ・ネットによる囲碁大会の開催
- ・勝敗予想機能による新たな観戦の楽しみを提供

### ③ 情報会員

日本棋院のホームページに付設した情報会員には、主に新棋譜から過去の名局まで、60年近くにわたる、約7万局の棋譜データを提供している。

### ④ 日本棋院囲碁チャンネル（映像配信）

Google社の提供する映像配信サービス「YouTube」に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設、棋戦のライブ中継や情報番組、棋士の情報発信などを行う。

## 9 囲碁殿堂資料館

2004年11月15日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品展示、歴史に残る名棋譜の展示を行う。

## 10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度の事業計画を策定し、積極的に活動推進する。

### 10-1 有楽町囲碁センター

有楽町の東京交通会館「有楽町囲碁センター」は、年末年始を除いて年中無休で、ファンの方々に、一般対局場のほか段級位認定大会、お楽しみ囲碁大会、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校等の総合サービスを提供している。コロナ禍の影響を完全に脱したとは言い難く、2020年6月より時短営業を続けているが、客足は徐々に戻り、コロナ前の7割程度まで売り上げも回復してきた。若手女流棋士を起用した級位者向けのプログラムの充実を積極的に図り、新規顧客の開拓、囲碁ファンの裾野拡大で活路を見出したい。

### 10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統轄し、普及拠点として「梅田囲碁サロン」を運営する。また各種囲碁大会の開催および後援を行い関西囲碁界の発展に努める。

#### （1）各種大会の開催及び後援（主なイベントは以下の通り）

- 第12回 阪急電鉄 納涼囲碁まつり
- 夏休み子ども囲碁フェスティバル 2025
- 第21回寝屋川囲碁将棋まつり
- 定例段位認定大会および級位者棋力認定大会（年各6回）
- シニア大会および各種懇親大会（年20大会程度）
- アマチュア全国大会大阪府予選等（2大会）
- 少年少女囲碁大会等 各府県こども予選大会（年8大会）
- 東大阪市囲碁フェスティバル

- 万博こども囲碁フェスティバル
- 春休みこども囲碁フェスタ

(2) 各種棋戦の開催（当本部主催の非公式戦）

- 関西オープントーナメント 2025
- 第7回 ワイズアカデミー杯

(3) 会館事業について（梅田囲碁サロン）

○ 「梅田囲碁サロン」は大阪駅および梅田駅から至便の場所に位置し高齢者には優しく清潔できれいな環境の提供を心掛け営業を行っています。

ポイント割引券等の活用や各種サービス等の充実を図り集客に努め多くのお客様に満足して頂けるように普及活動に尽力して参ります。

対局ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、有段者リーグを開催し、囲碁教室をはじめ法人各種団体への貸席等の勧誘も行い一層の利用促進に努めます。また販売コーナーでは人気の囲碁用品、書籍等を厳選し取り揃え利用者のニーズに応えます。

(4) 関西圏の大学での囲碁講座開設への取り組み

2024度は関西圏の大学において囲碁講座が4校で開催されました。本年度も引き続き講座開催に向け大学への支援そして新規講座開設の働き掛けを積極的に行い若者層への普及拡大を図ります。

(5) 小中学校への囲碁普及活動の充実

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら小学校の総合学習の時間やクラブ活動を利用した囲碁授業の導入、私立幼稚園等への囲碁入門教室導入のためのサポート、またすでに授業開催をしている小学校等への支援を継続し、こども達への普及をより一層拡大するように努めます。

### 10-3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・富山・石川・福井・静岡県天竜川以西）を統轄する。

(1) 各種大会の主催等（主なイベントは以下の通り）

- まだまだ頑張る囲碁大会
- ジャンボ団体戦
- 中部こども級位者大会
- 日経杯新春囲碁大会
- 大人のための級位者囲碁大会
- 愛知県・江蘇省青少年囲碁交流（来日）

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中日新聞社主催「第66期王冠戦」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

- 指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、

2年前から午前の部をスタートさせまして、お客様のニーズに合わせて指導を受けられるようになりご好評を頂いております。

- 院内イベントの充実を図り継続的にご来館頂けるように取り組んでおります。
  - ・「ゼロから始める9路盤」「いよいよ13路盤」
  - ・「10アンダー限定の日」
  - ・「級位者の日」
  - ・「Happy級位者の日」、「Happy有段者の日」
- 入門その後のお客様をターゲットとした企画を充実させて参ります。
- 囲碁学校につきましては、昨年度より順次、講師の交代や受講料改定に取り組み収支改善を図りました。入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全9コースを開講し、女性および子供から高齢の方々まで幅広い層の囲碁ファンより好評を得ております。

#### (4) 普及活動

- 中部地区の囲碁愛好家からの寄付により、中部青少年普及囲碁基金を活用し、管内の高校生以下を中心とした青少年の囲碁普及活動の推進に努めます。また、近隣幼稚園に対して継続的な入門サポートを実施しております。
- PTA及び地域ボランティアの協力を得て、小学校の放課後授業への導入を進める。また、中部地区の大学囲碁授業導入を働きかけ、広く囲碁の普及に努めます。
- 囲碁ファンの拡大のために、各県支部連合会の協力の下、愛好家参加イベントを開催し会員の拡大を図ります。

#### (5) 70周年関連事業

中部総本部は、2025年に創立70周年を迎えます。

記念グッズおよびリーフレットの作成、式典およびイベント開催などを通じて中部地区の財界および会員の皆様に「囲碁の素晴らしさ」を発信出来ればと考えております。

## II 収益事業

### 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

#### (1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう9級から八段までの免状を発行する。免状には、審査役である棋士の署名がなされる。

#### (2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、9級以上の免状保持者に囲碁普及指導員（S級、A級、B級）申請の権利を、六段以上の高段位免状保有者には、県師範、公認審判員を申請する権利を付与する。公認審判員の認証には、公認審判員講習の受講

と書類審査を行う。

## 2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、5F～6F部分を他法人に賃貸している。

## 3 販売品、書籍等事業（収益事業3）

### (1) 販売事業

東京本院、有楽町囲碁センター、梅田囲碁サロン、中部総本部の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売やインターネットを利用してのオンラインショップでの物品販売も実施する。

### (2) 書籍等

囲碁年鑑を5月に発行予定。そのほか既刊本を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売する。電子書籍としてアマゾン社の電子書籍プラットフォーム「Kindle」にて配信する。

### (3) その他

日本棋院が発行する定期刊行物（月刊碁ワールド）に広告を掲載し広告収入を得ている。また各会館に自動販売機を設置し、手数料収入を得ている。

## III 管理部門

### 1 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力する。

内部統制の強化については、「内部統制委員会」を中心に監査の実施及び改善取り組みを施しており、継続的に取り組み強化を図る。

### 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図る。

#### (1) 「G.O.・碁・ジャパン」応援募金の継続

ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金によるさらなるチーム強化等を図り、「世界で勝てる日本の棋士」の育成を図り、海外棋戦における成績向上を目指す。

#### (2) 「がっこう囲碁普及基金」の継続と拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした基金

を2015年4月より募金の受付を開始。いっそうの拡大を図る。

- (3) 法人賛助会員の維持・拡大。
- (4) 上記以外の特定寄付金（岩本海外普及基金等）、一般寄付金。